

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0170400642		
法人名	サッポロ・ライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム虹の家・琴似		
所在地	札幌市西区八軒3条東2丁目2-12 (電 話) 011-612-6020		
評価機関名	株式会社社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年10月1日	評価確定日	平成19年10月12日

【情報提供票より】 (19年9月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	44,000~49,000円 (生活保護者 36,000円)	その他の経費(月額)	水道光熱費 14,000円 (暖房費10~3月) 5,000円
敷 金	有 () 円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月 12日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	4	要介護2	3
要介護3	1	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 85.3 歳	最低 81 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮の沢ファミリークリニック・ロイヤル病院・中田歯科・宮本歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に位置しているため、近隣住民や町内会との付き合いが豊かで、地域密着が緊密に行われているグループホームである。経営者が、特別養護老人ホームで実母を看取った経験から、一人ひとりを誠心誠意お世話する施設を、という思いから開設した施設で、心のこもった暖かいサービスが提供されている。家族への報告では、写真を豊富に掲載し、具体的にイメージ豊かな記事を満載した数ページに及ぶ「虹の家だより」を毎月発行して、利用者のリアルな生活ぶりの情報を提供し、家族の安心感の形成に役立っている。共有空間は程よい広さで施設っぽさがなく、落ち着いた、明るい雰囲気醸し出している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回の評価で提起された、理念の改善、地域への広報活動、介護計画見直し方法、緊急対応・感染症対策など、すべてにわたって真摯に取り組まれ、改善が見られた。特に、地域との交流はたいそう豊かに行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 運営者、管理者、職員全員がそれぞれに自己評価表を作成し、カンファレンスにかけ、それらを管理者がまとめて仕上げている。全員が深く参加して取り組まれた。ただし、課題の意味が十分に理解されていない部分も見受けられた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月に1回の開催が定着している。ホームの運営状況、ホームの行事、地域の行事、防災体制、自己評価・外部評価のことについて話し合われている。また、運営推進会議で話し合われた結果に基づいて行事の協力や、災害時の協力体制、近隣との交流などが行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族から意見、苦情、不安が寄せられた場合には、直ちに事情を聴取し、会議にかけられ、対応策が検討されて翌日までに具体的な対応を行うよう、重要事項にも明記されているが、これまでのところ、意見、苦情らしいものが寄せられたことはない。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 運営推進会議で主要な連携の話し合いが行われ、それに基づいて行事企画や、防災訓練などが実施されている。ホームは町内会の行事には積極的に参加し、またホームが夏祭りを企画して地域の人たちを招くなど、積極的な交流、連携を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で一人ひとりを大切にしたい支援を誠心誠意提供する理念を掲げているが、地域密着の理念には触れられていない。	○	実際の活動の中で、地域に密着した活動が十分に行われているが、このことを理念にも盛り込むことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関とリビングの見えやすいところに掲示され、職員にもよく理解され、日常の業務場面や会議の席でも折に触れて確認されている。		
リビングへの刑事だけではなく、					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議でグループホームの制度の中身、認知症の知識などを説明して地域住民の関心呼び、理解が深まった。これらをベースにして町内会行事への参加、ホームの行事やホーム見学への地域住民の招待など、緊密な交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、会議で説明を受けた上ですべての職員がそれぞれに用紙に記載し、これを管理者が取りまとめて仕上げていく。外部評価で指摘された点については真摯に前向きに捉えて改善を実現している。なお、今回の自己評価については内容の理解が難しいとの声も聞かれた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回の開催が定着している。ホームの運営状況、防災体制、自己評価・外部評価のことについて話し合われている。また、運営推進会議で話し合われた結果に基づいて行事の協力や、災害時の協力体制、近隣との交流などが行われている		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所、区役所とも頻繁に足を運び、書類のことや運営推進会議のことなど、相談を持ちかけながら、ともにサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、A4版4～5ページの、写真をふんだんに配置し、詳細な活動報告、利用者の様子の紹介などを盛り込んだ「虹の家だより」を発行している。金銭出納記録は領収書を添付して毎月送付している。また、家族がほぼ毎月来訪するのでその折に詳しい報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を受ける箱を設置しているほか、日ごろ家族と接するとき何でも相談できるような信頼関係と雰囲気作りに努めている。外部者へ表せる機会については重要事項説明書に明記して周知を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の必要以上の異動が利用者にとって好ましくないことを理解しており、極力異動や離職の防止に努めている。離職の場合は事情が複雑なこともあり、利用者や家族に説明していない場合もあるが、新任についてはきちんと説明している。	○	職員の異動は利用者の認知機能レベルのいかんにかかわらず、不安や動揺を与えている可能性もあると考えられるので、馴染みの関係を大切にする観点から、本人や、特に家族にはその旨説明するよう検討を期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や社会福祉協議会から紹介される研修会には出来るだけ参加するよう、積極的に職員に紹介し、希望者には現場の判断で、勤務のやりくりをつけるよう、配慮している。また、受講者は研修報告書を作成するとともに、内部の勉強会で発表し、他の職員とも知識を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政が支援する、西区のグループホーム管理者会議に参加し、交流を行っている。この会議に基づいて管理者のみならず、一般職員も含めて相互訪問、勉強会などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始の前には必ず見学に来てもらい、雰囲気に馴れ、他の利用者と馴染むようにしてもらっている。職員は本人のそれまでの暮らしや生き方などを把握するように努め、家族とも相談をしながら工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から学ぶ姿勢を持ちつつ、多くの役割を積極的に分担し、職員、利用者を問わない支え合いの共同生活を実現している。洗濯物たたみ、調理、食器洗い、洗面所の掃除など、出来る人が自然に役割を引き受けている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、必要なことは日ごろの観察や家族の情報を元にしたセンター方式でアセスメントを行い、把握に努めている。本人の意思表示から汲み取ることが困難な場合は本人の立場に立って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、センター方式を中心にアセスメントを実施し、介護支援専門員が本人・家族の意向を聞き、原案を作成している。その案をもとにケアカンファレンスで意見交換をし、利用者が自分らしく暮らせる個別の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎に見直している。出来ていること、出来ていないことなどを、本人の状態をモニタリングしながら、満足が得られるように本人・家族と話し合っている。また、状態の変化がある場合は、関係者と話し合い、心身の安定を目標に介護計画を随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じ、通院時の送迎や利用者の個別な用事の送迎など、柔軟に必要な支援をしている。体調の状況が重度化する場合には、家族と関係者との話し合いで往診での点滴など、入院をしないでも医療が受けられるように取り組んでいる		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の健康管理では、提携のクリニックによる月2回の訪問診療、週1回の訪問看護の連携で相談できる関係を築いている。また、利用者が他の医療機関の受診を希望した場合には、事情に応じて送迎の支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化や終末に向けて、文書で提示し、同意書もある。重度化の状況に応じ、家族、関係者と連携しながら取り組んでいる。看取りのケースもあったが、状態が変化してからの対応になっていた。	○	早い段階から終末期に向けて、本人、家族、かかりつけ医、関係者と共有化を図るためにも、看取り指針の作成を準備されているとのことなので、実現を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重し、親しみはもつが、馴れ合いにならないよう、親しみの中にも丁寧な対応をしている。個人情報保護法は研修で学び、記録等の保管は事務所がオープンになっているので、職員だけが取り出せるように工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はおおむね決まっているが、職員は雰囲気を感じて個々の希望や過ごし方など、利用者のペースに合わせて対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は調理の段階から利用者の力を活かすために、得意な面を引き出し、下ごしらえなどを頼んでいる。食後は各自がお絞りを洗い、下膳をしている。食器洗いは職員と一緒にしているが、食事は食堂が狭いこともあり、利用者だけで食べている。	○	利用者と職員が同じテーブルで食事をするのは暮らしの全体で重要なことなので、座れる人数と一緒に食事を楽しめる工夫を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能で午後からの開始になっている。1日おきに入っているが、話し合いで順番を決め、浴室に下げている順番札を見て、朝から入浴を楽しめるように工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は生活歴や会話などの情報から、きっかけを作るが、その後は利用者自身が個々に合った役割を積極的に分担している。楽しみごとでは、多種の遊びと、ボランティア訪問によるギター演奏での歌、フラダンス、舞踊など気晴らしの機会も作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園で遊ぶ子供たちとの交流が日常的にあり、隣接する喫茶店のマスターから協力を得るなど、数人で気軽に出かけられるような環境を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の目が届きにくい時間帯には、玄関にブザーを付けているが、その他はできるだけブザーを止め、外に出る気配を見落とさないように、職員間の連携から鍵をかけないケアで見守っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練のマニュアルがあり、年に4～5回の火災訓練、また、年に1～2回の避難訓練や避難場所への誘導を定期的に行っている。区の消防署、運営推進会議のメンバーや近所の協力も得て、職員全体で災害対策に取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などを、詳細な個別のチェック表に記録し、状態変化が判りやすいように工夫されている。献立は委託業務の管理栄養士が作成し、栄養バランスについての相談ができる体制になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関内外は観葉植物や花などで、一般家庭の雰囲気づくりになっている。共用の空間場所には、職員と一緒に作った入れ物に季節感のある花等が飾っており、家庭的な環境づくりに努力している。階段の歩幅、両側の手摺と足元の灯りは昇降に安定感があり、自立にも繋がっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族が話し合いながら置物や飾り等、馴染みの物を持ち込み、自由に居室内を作っているため個別性がある。窓際に大きな観葉植物を置き、籐椅子に座ってゆったり過ごせるような工夫もある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。